

飛騨農林事務所の普及活動状況（令和7年4月30日現在）

今月の重点活動

■飛騨パプリカ 環境に配慮した害虫対策技術の実証計画を検討

飛騨地域では、令和5年度から高山市のパプリカ生産者と関係機関で構成する「グリーンな飛騨パプリカ栽培協議会」において、「グリーンな栽培体系加速化事業」を活用し、「天敵」を用いた害虫対策技術等、環境に配慮した栽培体系の実証を行っている。

4月15日に飛騨総合庁舎で第1回技術導入検討会を開催し、協議会関係者が参集して実証計画を協議するとともに、昨年度の反省点を生かした天敵の導入方法について意見交換を行った。出席した生産者からは「天敵で対策できる害虫とできない害虫がいるので、発生する害虫の種類と発生量をこまめに観察しながら、必要に応じて天敵以外の防除方法も組み合わせて地域にあった防除体系を確立していきたい」といった意見が寄せられた。

農業普及課では、実証事業の確実な実施と、環境負荷を低減する栽培技術の確立及びマニュアル策定に向け、支援していく。



【検討会の様子】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■認定農業者 新たに14経営体の認定農業者が誕生

高山市において、5年後の経営目標となる「農業経営改善計画」の認定を受け、今年度新たに14経営体が認定農業者となった。

4月10日には、認定書授与式が開催され、5名の経営体代表者が出席し、田中市長から認定書が授与された。

飛騨管内の農業の多彩さを反映し、トマトやホウレンソウの施設園芸を中心に畜産、水稻、果樹と幅広い経営品目で認定された。また、経営継承や新規就農者からステップアップした農業者も多く、飛騨管内の農業の発展に若手認定農業者の更なる活躍が期待される。

飛騨管内には613経営体の認定農業者がおり、農業普及課では市村やJ Aと連携して、各経営体の経営改善計画の実現に向けて支援を進める。



【新たな認定農業者】

■担い手 青年等就農計画・収支計画説明会を開催

4月9日、高山市で就農予定の長期研修生7名を対象に青年等就農計画・収支計画説明会を開催した。

青年等就農計画及び収支計画は、長期研修生が就農5年後の目標を立てる計画で、農業普及課では毎年その作成方法などについて助言している。

説明会当日は、12月に市へ提出すること、農繁期前の時間のある7月までに作成すると良いことなど、完成までのスケジュールや具体的な作成方法について説明を行った。参加した研修生は、就農計画の細かさに戸惑いをみせていた一方で、説明会后に自身の環境を踏まえた計画の作成方法について質問があり、研修生の就農への高い意欲がうかがえた。

農業普及課では、研修生が高度な技術・知識を習得した認定新規就農者になれるよう、指導農家や就農支援協議会の各関係機関と連携し、継続して支援を行っていく。



【説明会の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■宿儺かぼちゃ 栽培研修会（飛騨全域）を開催

宿儺かぼちゃ研究会は、109名の会員で構成され、生産者同士の切磋琢磨により、高品質な宿儺かぼちゃが栽培されている。しかしながら近年は、生産者数が減少傾向にあり、実需者からの要望量を満たせていない。

そこで、4月8日、新たな会員を募るため、研究会に所属していない飛騨全域の農業者も含めた栽培研修会を実施した。研修会当日は、令和6年度から導入した新たな混植用かぼちゃ（栗のめぐみ1号（商品名：宿儺のめぐみ））を中心とし、播種から6月までの栽培方法について研修を行い、農業普及課は講師として、播種・育苗及び圃場の管理、病虫害対策の実施等の講義を行った。

農業普及課では、今後、新規栽培者を重点に栽培管理や防除指導を行っていく。



【栽培研修会の様子】

■ほうれんそう ほうれんそう目揃え会及び栽培研修会を開催

3月24日から4月30日にかけて、飛騨地域の各蔬菜出荷組合でほうれんそうの目揃え会が開催された。

農業普及課からは、この時期に栽培上問題となる「べと病」の対策と、持続可能なほうれんそう栽培に向けた「グリーンな栽培体系加速化事業」の実証について説明を行った。

2月の大雪により、昨年度と同様、平年と比べて播種時期が2週間程度遅れており、春先の出荷量が少なくなっている。

農業普及課では、ほうれんそうの安定出荷に向けて継続して栽培技術支援及び情報提供等を行っていく。



【栽培研修会の様子】